

ピオ・エネア・デリ・オビッツィと「オペラ・トーナメント」ジャンル  
——初期イタリア・オペラ商業化の過程を追って——

松本 直美

ピオ・エネア・デリ・オビッツィ公爵（1592-1674）が初期オペラ史上果たした功績についてはまず、17世紀の著述家クリストフオロ・イヴァノヴィッチの著作 *Le memorie teatrali di Venezia*（1681年初版）が論じている。それによるとパードヴァで1636年に上演された公爵のオペラ・トーナメント作品である《エルミオーナ》が、翌年ヴェネツィアで世界初の商業的オペラ劇場がオープンされる原動力になったという。

本稿は、現在の学界では十分に論じられているとは言い難いオビッツィの活動について特に1630～40年代におけるオペラ・トーナメント作品に着目して考察するものである。ここでは、イヴァノヴィッチが示唆したようにオビッツィのオペラ・トーナメントが確かにヴェネツィアでのオペラの商業化に貢献していることを論じると共に、現在まで殆ど知られて来なかった第一次資料を紐解きながら、オビッツィの活動の中心は音楽劇の「発案」にあったことを証明したい。これは初期近代における「著書」の概念に対する我々の認識を新たにするものではないだろうか。宮廷の余興として誕生したオペラはヴェネツィアにおいて商業的事業に変容する。結論として本稿は、オビッツィの活動の変遷が、まさにその過程を象徴しているものであると同時に、我々の初期オペラ制作現場についての見解を新たにするものであると提唱したい。